

# 生活の中心を2階から1階へ変更した大規模改築

富山県 丁邸

■車いす対応の住まいへリフォーム  
Tさん夫妻が、車2台分のビルトインガレージを備え、2階にLDKがある住宅を新築されてから12年。夫妻は障害のあるお子さんのびのびと育つように、車いすで快適に生活できる住まいにしたいと、生活の中心を2階から1階へ移すという大規模改築を決意され、新築時の住宅会社に依頼されました。

■ツーバイフォー工法の設計ルールに則して、間取りを大幅変更

2階のLDKやサニタリーを撤去し、1階に新設するという間取りの大幅な変更は、ツーバイフォー工法の設計ルールに基づき、耐力壁区画をくずさないリフォームプランによって実現しました。減築や増築においては緻密な構造計算が実施され、十分な補強が施されました。ビルトインガレージはLDK・サニタリーに変わりましたが、トイレとユーティリティがあった南東部分を減築して車庫スペースが確保され、南西側の空地にユーティリティが増築されたのです。

また、玄関を道路と同レベルの位置に



傾斜地に建っているため、リフォーム前、玄関ポーチは階段になっていた。そこで今回、車いすの使用を考慮して道路からフラットにアクセスできるように、一番高い位置に移設された。車庫は、南東部分を減築してつくり、撤去されたユーティリティは南西側を増築して設置された。



以前はガレージの右側に玄関があった。

変更。生活動線や部屋入り口の開口幅も検討され、引戸・吊り戸や手すりの設置、床の段差を解消するリフォームも実施されました。「子供たちの健やかな成長を見守れます」と夫妻は満足されています。

リフォームのプロが語る

ツーバイフォー工法を熟知している会社に依頼することが重要

株式会社OSCAR J.J.  
住み継ぐオスカー  
リフォーム営業部  
宮下 卓さん



この事例は、改築に減築・増築が伴う大規模なものでした。T様は「他社に頼んだ見積りはかなり高額で、また、ツーバイフォー住宅のことを分かっているのだからかと思うようなプランが出てきて不安になった」と話されました。リフォームはツーバイフォーの構造を熟知しているところに依頼することが必須で、新築時の会社に頼めればいっそう安心でき、大きな満足も得られると思います。

ツーバイフォー住宅は間取りの変更が難しいと思われがちですが、構造躯体に手をつける場合でも、耐力壁と開口部等の設計ルールを守ることで、堅牢さを維持するとともに希望のリフォームを実現することが可能です。今後も、喜びと感動を生むリフォーム提案ができるよう努めてまいります。

浴室、洗面室、トイレの床はフラットで、開口は幅広く、引戸・吊り戸が設置されている。車いす使用時も行き来がスムーズで、動作を支える手すりも設けられた。



LDKとサニタリーは、1階の玄関とビルトインガレージがあったところにつくられた。リビングからトイレ、洗面室、ダイニングへと車いすでスムーズに移動できる回遊プランが確保された。対面式キッチンなのでおさんを見守りながら調理や後片付けができる。



室内、ホールから土間、玄関ポーチへと、床は段差なくフラットに続くので、車いすのまま外出することができる。

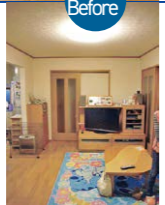
2階にあったリビングはハンモックを楽しむことができるリラックススペースにリフォームされた。吹抜け部分にFRP製のグレーチングがはめ込まれているので、スペースの有効活用になるとともに、1階のリビングにいる家族の様子が分かる。



Before



Before



2階にあったリビング。



2階にあったダイニングキッチン。

DATA

リフォーム年 / 2015年8月 築年数 / 12年  
規模 / 2階建て  
建物面積 / 136.74㎡ 増改築面積 / 107.72㎡  
設計・施工 / 株式会社OSCAR J.J.

After  
Before